

いなほ

第124号

2022年7月5日

NPO 法人 萌

代表 波多江文哉

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

当事者から見た会長との思い出特集号

今月号は当事者からの原稿を載せることにしました。

波多江会長との思い出（計画相談を受けていた利用者 U 氏投稿）

波多江会長との出会いは
六年ほど前になります

自分がいなほに訪れた日確か木材を切っていました
最初に来訪を気づいてくれたのも会長でした
萌を案内してくれ
自分はその後グループホームへ向かいました
萌に通う決心は即座に決め
退院後真っ先に萌に行きました
会長は本当に萌で良いのですかと聞いたのを思い出します
いいのですと自分は返答しました
そのまま一年不安定ながら萌に通いました
その頃はほぼ毎日通っていたと思います
非鉄の仕事をしてながら会長に竹林へ連れて行ってもらったり
畑を手伝いにつれられたりしました
会長との歴史のなかで印象深いのは
自分が失踪事件をホームで起こした際
萌に挨拶に行くと
これからどうするのですかと
萌に入り口に立ち、振り返る自分に聞いてきたことです
それから長い付き合いが始まりました
萌に在籍中、何度も休みがちになり、その度にどうするのですかと聞かれました

何度も萌に復帰したのは会長が居たからです
その間会長はメール便だったり、木工だったり、畑仕事だったり、手の尽くせる限り時間を掛けてくれました
三年在籍したのですが
とても濃い三年間でした
葛藤の日々でした
しかし自分は離れる決心をしました
今までいたどの職場よりも過酷だったからです
萌は自分に自信を失うくらい過酷だった気がしています
そしてホームでの生活の合間に頻繁に会うようになりました
ホームの駐車場で座って話したり
聖母の園で座って話をしたり
ある時は医療センターのバス停で話をしたりしました
内容は文学、哲学、音楽とジャンルは問わずでした
時には会長と喧嘩になったこともありました
自分が仕事をしないでホームにいた際どうするのですか
追い出されますよと脅されたのが原因でした
また仕事に就くも一年くらい在籍して辞めるように二人で決めました
自分が全くやる気を失ってしまっていたのが理由です
それからデイケアを二人して回りました
デイケアに通う決心をしたものの
病院からよく考えてくださいと言われデイケアの許可は下りませんでした
自分は引きこもりになってしまい
そんな自分を最後まで心配してくれたのが会長でした
会長の願いとは裏腹にまだ引きこもっていますが
今の自分には毎日の日常を生きるのが精一杯なのです
自分と会長の間にはテーマがありました
飲酒の問題です
会長は自分の断酒を助けるため勉強会を開いてくれました
しかしながら自分の飲酒は止まりませんでした
自分と接しているうちに諦めも肝心ですよと言われた事を最近思い出しました
会長が亡くなってからようやくその意味が理解できるような気がします
そしてその言葉に救われたのです
会長が創作活動でもしたらどうですかと言っていたこともあり
最近気が向いている時に小説や詩を書いています
日記は毎日書いています
それが自分の今できる事のような気がします

私から見た会長

鷹尾 由香

会長が亡くなったあの日から、月日の流れは早いもので、もう半年が経ちました。一日一日を過ごしていく中で、会長が居なくなった事を現実的に考えられるようになっていきました。



そんな中、今回いなほの通信を書くきっかけとなったのは、私が通院しているクリニックの先生に、「会長の性格など思った事をそのまま書いてみて。読むから。」という話があったので、書く事にしました。

その先生と会長が写っている写真も、事務所にある会長の席には飾られています。色々な人との交流があった事を、亡くなった後に知りました。

時々会長の夢を見たりしますが、一番最初に見た夢というのが印象的で、事務所に会長が座っていて、それを見た私が生きている会長に大泣きしている。そんな夢を見た時は、起きた時とても悲しく思った事があります。きっと、その時はまだ会長の死というのがまだ受け入れられていなかったからなのかもしれません。

所長や理事長との会話の中で、会長の話を良くします。会長の事を話せたり、私の知らなかった事を初めて聞けたりする時が、私にとってとても嬉しい時間なのですが、その分会えな事が寂しく感じたりします。

会長は人の事を悪く言うところや、悪い冗談を言ったりする所はありましたが、一見厳しくも見えますが、意外に優しい一面もあって相談にのってくれたり、アドバイスをくれた事も何回かありました。周りに流されない真っ直ぐな所や、好き嫌いがはっきりしている人で、人に親しまれる魅力的な所がある人でした。

会長の良い所は、私には欠けています。時々、会長のような性格だったらと思う時があります。こんな時、会長だったら…会長がいてくれたら…と思う時、沢山聞きたい事、アドバイスが欲しい時も凄くあります。…そう思う時、会長の存在の大きさを感じます。

そんな毎日の中で、私達は生きていかななくてはなりません。私だけではなく、この先もずっと心の中で生き続ける人です。

ずっと…ずっと…。



今回から理事役員メンバー持ち回りで「萌とわたし」というテーマで自由に記述していただくコーナーを設けました。ご一読いただくと嬉しいです。

萌を支えてくださっているいなほ読者の皆さま、いつもありがとうございます。6月11日の総会で副理事長への承認を頂きました、中澤秀樹と申します。簡単に自己紹介します。

昭和44年4月、母親の故郷であった秋田で出生、横浜市泉区で育ちました。現在は茅ヶ崎市に在住しております。横浜市泉区で建築板金業を営むほか、2年ほど前から戸塚区原宿で「北の漁場」という居酒屋を経営しております。故伯夫会長とは経営者会の経営指針を創る部会での同期でした。伯夫さんの印象は、普段は物静かで謙虚な感じの方ですが、障がい者の話になった途端に、真剣にまっすぐ話をする人だなと感じていました。

小学生の頃、「今日も行こうか」と友達に誘われ自転車で30分くらいの所にある養護学校に行くことが有りました。広い施設の中に入ると、障がいをもつ私くらいの年齢の子供が居て何をやって遊んだのかははっきり覚えていませんが、障がい者との交流はその頃からと覚えています。「障がいを持つ人には優しくしなければならない」という教育の中で育ちました。今となっては、障がいがあるのではなく、それもひとつの個性として捉え、どう向き合っていくか、行けるのかを大切に考えています。

先日パレット作製をしている所を見学し、参加させてもらいました。建築業に携わっているので作業内容はとても身近で、楽しい体験でした。黙々と作業をこなす利用者さんの姿はもはや職人です。それなりに体力を必要とする仕事なので、決して楽ではありませんが休憩時間のひと時に汗をぬぐいながらお茶をいただく時に見せたみんなの顔は、とても充実しているように感じました。

「やってみたいこと」

パレット作製では多くの廃材が出ます。それを再利用し木工教室を行い、近所の子供たちと触れ合えるような場所を作り、いままでよりも更に多くの方に身近に感じて頂ける施設づくりのお手伝いをやりたいと考えています。なかなかハードルも高くすぐの実現とは行きませんが、可能性を信じて少しずつ実践していきます。

最後に、いなほ読者の皆様には萌の運営に関して、多大なご協力とご理解を頂いていることに感謝いたします。今後ともぜひあたたかく見守ってくださいますようお願い申し上げます。





無事できるか心配されていた、ジャガイモの試し掘り。できていましたジャガイモが・・・よかったです♡

農業のこと

今、萌の畑の農業マニュアルを作成中である。やってきた歴史は伝えていかなくてはならないと思うから。歴史をつないでいくとは、同じことをやるという事ではなく、何を大切にしてきたかのかを学んでいくことだと思う。歴史の中の一員として今はどうしていくことが一番かを考えていきたいと思う。マニュアルは利用者さんが読んでも、わかりやすく書かれています。今、彼らは共通テキストを読みながら、なんとか自分で考えてやろうとしています。その力をもっと伸ばすための材料です。

仕事とはやっていく中で、自分が何をやればよいか、次は何をすればよいかを自分の頭で考えていく力をつけることが、就労支援の一つだと思います。明日はこれだね、天気は晴れるよなど、自分たちが自分たちで思索していくことが、生きていく力をつけていくことにつながっていくのではないのでしょうか？

人に言われたからするのではなく、やることを自分で考えだす。仕事での成功体験が日常生活にも夢を与えていく・・・そんな仕事場にすることで、萌の求める「生活者としての」障害者の在り方を模索しているところです。

(波多江久美子)



試し掘りのじゃがいもを、いなほのコック利用者が畑で茹でてくれました。卵焼き・おにぎり・キャベツの千切りを持ってきてくれました。



萌日記 2021.5.21~6.20

・工場は、雨が降るとよく下水が詰まります。下水管から異物を押し出すために突く作業が、梅雨時は頻繁に必要になります。

・イチゴが収穫できました(5/21)。そのイチゴを材料にジャムができました(6/15)。

・非鉄、出荷を原則火曜日と定例化しています。最近



仕事のルールをつくる

は月間5 t強の出荷量が続いており、一時期の低迷からは立て直しつつあります。

・実習生が1名、農業を中心に実習を続けています(6/1~)。もう1名、現役の高校生の実習も受け入れ(6/6~)、パレットなど多様な仕事を体験しました。

・戸塚事務所での野菜販売(5/25ほか)は継続しています。水曜日が多いようですので、皆さまぜひ一度お立ち寄りください。

・解体する電化製品を、ある養護学校とその2つの分教室に実習材料として提供しました。関係機関との連携を深める新たな形ともいえましょう。

・計画相談、研修、横浜市の集団指導、免許の取得、そして総会など、職員が外を飛び回ることも多かったこの期間でした。(岡)

萌と地域活動の今 (13)

約1年ぶりです。この間の動きを順次書いていきます。コロナ禍にあってお休みしていた「たいしょう食堂」ですが、ようやく7月から再開の見込みです。一方、代替的に4半期に一度のペースで続けていた、貧困家庭とくに子育て家庭を対象とした「食品配布会」。これも継続して行く見込みです。

食品配布会(最新は6/12)に岡と一緒に参加し続けている利用者Oさん。実行委メンバーの何人かと顔見知りになり、普段関わっている畑の話などもするようになりました。多少たどたどしくても、語る言葉はきっと相手の心に響いている、私は後ろで見守っていてそう感じています。当日ボランティアだけでなく、実行委員会にも参加し、丁寧な報告を岡に寄せています。

原宿地域ケアプラザ、大正地区センターやそこに集まる人とは、地道に関係づくりを進めてきました。利用者もその中に一緒に入っていけたら、〈支援される側〉を超える存在になっていただけたらという思いです。(岡)



食品配布会の事前準備作業

会長との思い出

工房いなほで農業に参加しているOさんとKさんの二人に「会長との思い出」について6月22日(水)「萌」の事務所にてお話をうかがいました。

* どんなきっかけで会長との関わりが始まりましたか？

Oさん:僕は、「いなほ」に8年くらい通っています。いなほに入って3~4年経ってから、会長から「畑やらない？」と誘われました。それで「はい」って返事して自然の流れで一緒にやるようになりました。

Kさん:僕は、4年前に「いなほ」に来ました。最初は非鉄の作業をやっていました。2年前に会長から「畑に来ないか？」と声をかけられ、「行こうかな」と思いたまに行くようになりました。

* 畑ではどんな様子でやっていましたか？

Oさん:最初は今の畑と別の場所でやっていました。会長と一緒にやり「自然農法」を初めて知りました。畑の鎌の使い方などはみようみまねで覚えました。本格的に畑を会長とやり始めたのは去年の7月からです。そしてKさんが加わりました。土・日の休みの日にも会長から連絡があつて「畑に来ないか？」と誘われ二人で作業をしたこともたくさんあります。おしゃべりの時間もたっぷりあつて、ためになる話もしてくれました。例えばチラシ配りの仕方、お寺さんもいいよ」などです。

Kさん:僕は週に1~2回会長と畑作業をしました。天地返しをやったりしました。

* 会長とのおつきあいでどんな時が楽しかったですか？

Oさん:畑でいろいろな話をしたことやサツマイモを収穫した時たき火で焼き芋をして食べたことが楽しい思い出に残っています。

Kさん:焼き芋をした時。「その中に木を投げろ」とたき火して焼いた芋がおいしかった。

* 特に印象に残っていることはありますか？

Oさん:自分は最初F市の市営住宅に住んでいて、親が亡くなって戸塚区のアパートに引っ越しする時会長さんに手伝ってもらいました。血糖値の高いことも注意してくれて、体のこともすごく心配してくれたと思います。会長とは最初から自分は自然体でいられたし、「ありがとう」という言葉もよく言ってくれました。厳しいけど、自分たち(利用者達)のことを考え励ましてくれる人でした。

Kさん:女性との恋愛で注意を受けたことがありました。でも自分なりに納得してその言葉を受けとめられました。それから、8月の暑い日、会長が午後から来る予定で午前中は自分一人で畑の雑草とりをしていたら、午後に会長が来て「お前よくやったなあ！」とジュースをおごってくれたのがすごいうれしかったです。

* 会長に今思うこと、またどんなことを伝えたいですか？

Oさん:畑作業で自分が耕運機を使っている姿を見せたかったけど見せられなかったのが心残りです。新しい体制になったのでこれからも空から見守って欲しい。会長は自然農法の農業を他の利用者さんにも理解してほしいと思っていたのでそれは自分がバトンを渡されたように思います。これから会長さんと一緒にやれなかった難しい野菜にもチャレンジしてみんなと一緒に勉強しながらスキルアップしていきたいと思っています。

Kさん:もっと畑と一緒にやりたかった。これから畝を作ったり何でもできる人になりたい。

* ありがとうございます。

(聞き手、畑担当 森川)

*** NPO法人萌の総会が開催されました ***

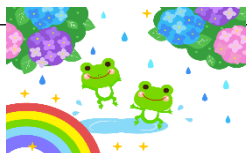
6月11日、計画相談支援事業所 ふかやにて総会が開催されました。理事／会員が集まり、2021年度の報告・2022年度の活動予定が報告されました。13人ほどの参加者でした。また、会長の死去に伴い、副理事長を中澤氏が引き継ぐことになりました。

総会前に、会長が計画相談を受け持っていた利用者のU氏から、会長との思い出が語られ心に沁みました。今回の通信に文章で投稿してくれました。

また、運送事業の管理責任者のI氏より、運送部門の改革案などをお話ししてくれました。具体的な提案で分かりやすいものでした。

2022年度の活動がより萌を発展させ、毎月の黒字経営を目指して頑張りたいです。

もうすぐ、ローマ人物語全 43 巻を読み終わります。ローマが小さい都市国家から、巨大な帝国になっていくにつれて、小さい時代にあった「寛容」の心が失われていきます。大きな自分を維持することが、初期の精神を忘れさせていきます。萌も当初より、職員数も事業所も多くなり、月に扱うお金のも多くなりました。初期の精神がなんであったか、後を継ぐ利用者たちに、元気な時に物語りと思う昨今です。大きくなってきた組織を維持していくためだけになってはいけいなのでしょう。主体は当事者たちであることを、私はだいにしていきたいと思います。



今月号は、会長の思い出を利用者たちの声を中心に集めて見ました。見る人により思い出の形が違います。新たな会長の一面を見たようです。

編集後記

もうすぐ梅雨明けなのか？暑い日々が続いています。農業をやっていると、ものすごく日焼けします。時計のバンド痕が白く残りました。生まれて始めて日焼け止めを塗ってみました。赤ちゃんでも平気です、刺激はありませんという事でしたが、付けた後、皮膚がピリピリして痒くなり、午前の作業が終了した時に、必死に洗い流しました。腕には痒い湿疹が出てしまいました。お化粧品などしたことが無い人間でした。やはり、人工的なものはやめておこうと思いました。

(所長)